

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『和を大切にする』 心が和むケアを意識し、不足があれば事業所全体の問題として改善に取り組んでいる。	事業所の理念を掲げており、理念の実践ができるように職員も個人目標を設定しているほか、玄関や事務室にも理念を掲示しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所様より毎年のように菊(かきのもと)を届けて頂き美味しく調理したり、コロナ感染状況を見ながら桜を観に出掛けて地域の方とお話ししたり、オンラインを使用しているの交流がある。	ご近所の方から食材を頂いたり、除雪作業の相談に応じたり、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、今後は例年通りに事業所にてオレンジカフェを開催し地域の方にも来て頂くなどし、地域との交流を検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	柏崎市役所より声を掛けて頂き『チームオレンジ』の一員として認知症の理解や支援につながる取り組みに参加している。 『もの忘れ相談会～オンライン開催～』にて相談窓口を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月毎に開催している。 * 書面開催 出席者: 柏崎市役所、民生委員、町内副会長、ご家族様	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面で開催ですが、2ヶ月に1度、市の担当者、地域包括支援センター職員、副町内会長、民生委員、ご家族に事業所の状況や活動報告を行い、頂いた意見を活かしサービス向上につなげています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より相談や情報の共有をさせて頂いている。 『チームオレンジ』の取り組みを一緒に行ったり、『もの忘れ相談会～オンライン開催～』について柏崎市のHPIにも載せて頂いている。	市の担当者及び地域包括支援センター職員とは運営推進会議にて事業所の状況を報告しアドバイスを頂くなど、協力関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止・虐待防止委員会は二ヶ月毎に行い、全体ミーティングで話し合い記録に残している。※不適切なケアがあれば朝礼でも話をして改善に向けて情報を共有している。	身体拘束をしない方針であり年に2回研修の機会を設けたり、2ヶ月毎に定期的に検討委員会を開催するなど、職員の理解を深めています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上	身体拘束同様に、年に2回研修の機会を設けたり、職員の言葉の遣い方についても気になる点は指導するなど、普段の生活の中でも対応について考えながら、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年まで入居されていた利用者様に保佐人の方がいて支援の相談、実践をしていた。職員へ周知できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は不明な点を確認しながらお答えしている。解約時も不安な面があれば解決できるまで一緒に対応している。メールも活用し、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やご連絡をした際に、お困り事や要望がないかを確認している。運営推進会議にも参加をして頂き、ご意見を頂いている。	ご家族の面会時に意見や苦情を確認しているほか、運営推進会議にて要望の確認や、サービス担当者会議時にも意向を確認しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、毎月のミーティング、日々の会話の中でも運営に関する提案を聴き、職員それぞれの得意を現場に活かして動いている。	率直な意見や提案が職員間で共有できるように、毎月のユニット会議にて職員の意見を確認する機会を設けています。また、管理者が職員に対して個別面談を定期的実施し、職員の意見や要望を把握するようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の希望の働き方を把握し、仕事もプライベートも大事にできるように調整している。 メリハリのある職場環境となるように声を掛け合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ミーティング時に全体で研修動画を視聴したり、プライベート時間でも勉強ができるような体制がある。* イーケアラボ使用 職員の得意を活かして、ご利用者の喜びに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修に参加し、同業者の方と交流し得たものを現場に反映してくれた。 コロナ感染状況をみながら、外部研修への参加を増やしていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自宅での様子を確認し、どんな支援が必要かを話し合い決めている。 入居後もご家族にいつでも会えるという安心感を持ってもらえるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際はタブレット内の動画等で施設内の雰囲気をお伝えしたり、入居後はご本人だけでなくご家族の寂しい気持ちにも寄り添えるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご自宅での様子をしっかりアセスメントし、入居後も継続できるようにしている。 こだわりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援とは何かを念頭に置いて対応している。 出来る力を奪わないこと。待つこと。 もっとできる事があるのではないか？という視点を持ち対応している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画書にはご家族の意向が入り、支援を行うにあたってご相談をしながら進めている。 ご家族よりメールにて希望を聴くことも多い。 いつでも話せる機会を作っている。	ご家族には受診支援を行ってもらったり、事業所からも担当職員がご利用者毎に定期的に個別のお便りをお送りしたり、活動の様子をまとめた広報を送付し情報の共有に努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も面会の希望があり、コロナ感染状況等に合わせて玄関先での面会や窓越し面会を行っている。 いつでもお待ちしておりますとお伝えしている。	ご家族とオンラインを活用した面会を行ったり、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、ご家族にも協力頂き自宅へ出かけるなどし、関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで皆さんと一緒に過ごすことや、ご自分のペースで自室で過ごすことができる。 居心地の良い空間となるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にご連絡することもあり、必要時に声を掛けていただけるような関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書にはご本人の意向が入っており、支援にしっかりと反映している。 ご本人の反応やタイミングをみながら対応している。	ご本人、ご家族の要望を確認し担当者会議にて一人ひとりの介護計画に反映できるよう努めています。ご利用者が表現が困難な場合も、日頃の生活の中でのお話などから意向を確認するようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や入居後のご様子を、書面や口頭で情報を共有し支援に繋げている。	入居時に把握したアセスメントだけではなく、日々の生活でご利用者との会話や、ご家族からの情報収集により把握に努めており、定期的にあセスメントの見直しも行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の体調やペースを守りながら、夜間しっかりと身体を休めるように配慮している。 (昼夜逆転にならないように)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向をもとに介護計画書を作成しており、気付いたことは朝礼やミーティング等で情報を共有し日々のケアに活かしている。 * 事業所全体で取り組んでいる。	3ヶ月に1回モニタリングを実施し、課題の把握や対応方法について検討しています。必要に応じてご家族からの意見等もお聞きし、介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	同上		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	オンライン面会やいつでも連絡がとれるようにメールでのやり取りもしている。 面会について、基本は窓越しの面会になっているが、市内の感染状況をみながら直接の面会も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染状況を確認しながら、ボランティアの方に入って頂く。(お化粧のボランティアあり) ソフィアセンターからの本の貸し出しを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者ごとにかかりつけ医の受診を継続している。歯科衛生士による口腔ケアや、薬剤師による服薬管理も開始し専門的な視点で支援を行っている。	ご家族に定期受診をお願いしているご利用者もおりますが、ご利用者の受診支援を職員が同行して行うこともあります。また、協力医との連携を図り適切な医療を受けられるよう支援しており、必要に応じ職員も同行しご利用者の状態を報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問と緊急時の訪問、24時間オンコール対応でご利用者の体調管理を行っている。 医学的な支援や体操を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人、ご家族の意向をお聴きしながら、担当のソーシャルワーカー様と連絡を取り合い退院の目途について話している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針(看取りの方針を含む)」を説明し、同意を得ている。看取りについての事前意思確認書をお預かりしている。	重度化した場合や終末期の対応については事業所としての指針も作成し、契約時にご家族に同意を頂いているほか、状態に応じて話し合いの機会も設けています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、応急手当講習会(90分)を受講している。 * 2022年11月25日受講済み 事故防止や事故発生時の対応について共有している。	毎年事業所にて救命講習を実施しており、職員が適切な初期対応ができるように指導しています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。 * 2022年5月31日と11月25日実施済み 水害避難訓練も参加している。 * 2022年6月19日実施済み	日中の火災を水害を想定した避難訓練を行ない、災害時を想定した非常用の食品や水も確保されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇について、毎月ミーティング時に研修を行っている。* イーケアラボ視聴 日頃から不適切ケアがないか声を出し合い、事業所全体で取り組んでいる。	事業所広報への写真の掲載についても同意書を頂いており、情報保護に関する研修や日々の業務を通して周知徹底に努めています。また個人情報保護マニュアルを整備し、社内規定にも明記されており、対応方法を徹底しています。	個人情報使用同意書で氏名の記載欄が記入されていない方がいましたので、今後ミスのないように改善されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースに合わせて支援を行うようにしている。ご本人の反応を見ながらタイミングをみて再度声を掛けるなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向やペースを大切にしている。ユニット間を行き来される方も多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者より「髪を染めたい」「髪を切りたい」という希望がきかれ、訪問理容につなげている。切る際もご本人の意向を確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を確認したり、調理中の味見や盛り付け、準備や片付けを一緒に行っている。旬の物を食べたり、他県のツクイと特産物を交換したりする食イベントを楽しまれている。	ご利用者の負担にならない範囲で食事の準備や後片付けも一緒に行っています。イベントメニューを取り入れたり、各地域の特産物を楽しんで頂ける機会を設けるなど、ご利用者に食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回、管理栄養士が入り食事や水分等の摂取状況や体重を確認し体調管理を行っている。 いつでも相談支援ができる環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月(1~2回)歯科衛生士の口腔ケアを受けながら、毎日の口腔ケアに活かしている。必要に応じて歯科受診や往診を行い、清潔保持が出来ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で確認し排泄支援につなげている。羞恥心等に配慮し、気持ちに寄り添う支援に努めている。	ご利用者全員を対象に排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握することで気持ちよく自然に排泄ができるように日々取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度に体を動かすように支援を行っている。 *水分摂取量を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を毎日したいという希望に対して入れる環境を作ったり、入浴を拒否されるご利用者に対しても声掛けの工夫やタイミングをみて気持ちの良い入浴につなげている。	ホームでの入浴を楽しんで頂けるように、入浴を嫌がる方にも声かけのタイミングや方法を工夫したり、必要な方には同性介助で支援したりしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合った衣類や布団、室温を調整している。 不眠のお客様に対しては個別のケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2022年12月より、薬剤師による居宅療養管理指導を開始。 専門的な視点で服薬管理を行い、安全に服薬支援を行えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中でそれぞれの役割や得意な事を行って頂けるような環境がある。 ご利用者同士でおしゃべりを楽しまれている。 リモートイベントで他者との交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者やご家族から希望があった畑を作り収穫を楽しんだり、憩いのスペースを作りいつでも外へ出られる環境にしている。日光浴の大切さもお伝えしている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年では天気の良い日は散歩に出掛けており、個別の外出支援も対応できる範囲で行っています。また、季節に合わせてお花見や紅葉見学にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金という形でいつでも購入ができるようになっている。こちらからも何か欲しいものはありませんか？とお伺いして希望を聴いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月写真付きのお手紙でご様子をお伝えしたり、こまめにお電話やメールでやり取りをしている。 ご自分のケータイがある方は毎日ご家族と連絡を取り合い、ない方はいつでもお繋ぎできる事をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには音楽が流れ、ご利用者の笑い声やおしゃべりを楽しむ姿がみられている。職員も環境の一部であることを意識して、環境作りに努めている。	共有スペースには畳の小上がりがあり、ご利用者が洗濯物を畳んだり、お昼寝ができるようになっています。普段の活動の様子をまとめた写真やご利用者の作品も掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ空間にいながらも、ある方は食器拭き、ある方は新聞を読んだりと…自然と行える環境がある。ご自分の席もあるが、自由に過ごせる椅子やソファがあり、憩いの場がいくつもある。 ユニット間を自由に移動されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた物やご家族との写真等を飾り、ご本人の安心感につなげている。居室の掃除やリネン交換を行っている。	家具等は使い慣れたものを使用していただき、身の回りには好みのものや思い出の品を飾ったり、居心地のよい空間作りに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る力を奪わないこと、自立支援を意識したケアを行うように職員間で情報を共有している。 出来る事を維持するだけでなく、出来る事を増やしていくことも意識してケアに取り入れている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				